

赤煉瓦通信

2018
Vol. 4
〔第4号〕

～一粒の麦から～

西南学院と ボランティア 〔巻頭特集〕



西南学院大学図書館
〔2018年3月撮影〕

SCHOOL ORGANIZATION CHART

1万人を超える学生、生徒、児童、園児が通う西南学院。

西南学院は、保育所・幼稚園から大学・大学院までを擁する全国でも数少ない総合学園です。
保育所から大学院まで一貫した理念に基づいて保育、教育をしています。※データは2018年2月現在

西南学院大学

学生数：約8,200人

1949年開設。人文・社会系総合大学です。開学当時からキリスト教に基づく人格教育を実践してきました。また、1971年に他大学に先駆けて国際交流制度を導入し、外国語教育をはじめとする国際教育の充実・向上を図っています。

長年にわたって培われてきた伝統は、社会的に高く評価されており、同窓生たちは、九州の経済界をはじめ、教育、マスコミ、法曹、福祉など多方面で活躍しています。



西南学院高等学校

生徒数：約1,310人

全学年、毎日0限目から6限目まで7時間の授業が行われています（月曜のみ8時間）。多様化する大学入試にも対応できるように、習熟度や進度の違いに配慮して授業を実施しています。

知識の習得はもちろん、物事の良し悪しを判断する知恵と「自分にして欲しいことを隣人に行う」という積極的な生き方を身に付け、それをいかに社会に生かしていくかを学びます。



西南学院中学校

生徒数：約690人

一人ひとりが授かった能力や個性を最大限に伸ばすことができる教育を目指し、中高一貫教育を実施しています。

6年間にわたるゆとりあるカリキュラムと豊かな環境の中で、生徒たちが存分に知識や能力を伸ばすと同時に、聖書に示されている価値観や人生観を学んだり、クラブ活動や国際交流、ボランティア活動等を通して、豊かな人格形成ができるように配慮した教育を実施しています。



西南学院小学校

児童数：約420人

2010年に開校した、西南学院の中で最も新しい学校です。心身ともに成長著しい小学校の課程において、キリスト教の精神に基づいた教育理念のもとに「隣人愛を育む」「知恵を育む」ことを目標として、平和な未来を創る子どもたちの育成に努めています。

環境に配慮して設計された校舎内は最新の教育機器を備えており、教育の質的向上が図られています。



西南学院舞鶴幼稚園

園児数：約170人

福岡市内で最も歴史のあるキリスト教主義の幼稚園です。「心ゆたかでたくましいひかりのこ」を目指して、太陽と土と水と緑に触れながら感性豊かに育ち合う子どもたちを育成しています。一人ひとりの子どもの気持ちをくみ取ることができるよう、各クラスを複数担任で受け持っています。

思いやりの心を培いながら、個性豊かにのびのびと生きていく力を育む保育を実践しています。



西南学院早緑子供の園（保育所）

園児数：約110人

0歳児から6歳児までの園児が長時間生活する場として、家庭的な雰囲気ときめ細かな育児を心がけています。

「神様に愛され守られて成長していく一人ひとりの子どもを大切に」というキリスト教を礎とした保育理念を柱に、子どもたちが神様の深い愛に包まれている安心感を持ちながら、生きる力の基礎となる心の土台を育んでほしいと願い、保育を進めています。



【“一粒の麦”について】 「一粒の麦」は、イエス・キリストが言われた「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒の麦のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」を語源としたものです。広い世界の中で、西南学院は「一粒の麦」であり、西南学院で学ぶ一人ひとりもまた「一粒の麦」と言えます。「一粒の麦」が持つ可能性を信じ、社会のために尽くしていくこそが創立者の思いであり、それは今なお大切に受け継がれています。

学校法人 西南学院 <http://www.seinan-gakuin.jp>

西南学院大学・大学院／西南学院中学校・高等学校／西南学院小学校
西南学院舞鶴幼稚園／西南学院早緑子供の園（保育所）

西南学院広報誌

赤煉瓦通信 ～一粒の麦から～

2018年4月23日発行（年1回発行）
学校法人西南学院 総合企画部 広報・校友課
〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92
TEL.092-823-3248

院長コラム

他者に寄り添うこと

今春、西南学院は103年目の年を迎えました。「西南よ、キリストに忠実なれ」という建学の精神の言葉は、今までに何度もさまざまなところで、モットーのように言われてきました。しかし、合言葉のように唱えるだけではモットーにすぎず、意味がないと思います。それでは「西南よ、キリストに忠実なれ」の意味は、具体的にどのような考えると良いでしょうか。

今回のコラムのタイトルが、「西南よ、キリストに忠実なれ」の意味を考えるうえで一つのヒントになると思います。聖書に書かれているイエスの活動を参考にとすると、イエスはいつも、ほとんど休むことなく「他者に寄り添った」ということが分かります。これは、さまざまな場面から読み取ることができますが、例えば、イエスは、自分に近い人たちである弟子たちに寄り添って、ご自分のミッションを遂行されました。同じように考えると、「西南よ、キリストに忠実なれ」は、教職員、同窓生、在校生と保護者の皆さんが互いに協力し、西南学院のそれぞれの園と学校の教育理念を共に実現することだと言えるでしょう。

また、イエスの生涯を見てみると、彼は身内といえるときだけではなく、「外」の人たちにもよく寄り添っていました。その時イエスは、権力者から本場に居場所のない人まで、社会身分を問わず平等に扱われました。西南学院の

場合は、これは相手が誰であっても差別なしにその方の場合、一番大切にすることを意味するでしょう。

また、イエスは多くの人に寄り添って教え、励まし、助けてくださいました。それは、西南学院につながる私たち皆が、さまざまな意味で弱い立場の人たちや小さい人たちに寄り添って支えていくことを意味するでしょう。一つの具体的な例は、西南学院高等学校同窓会が学院創立100周年を機に立ち上げた一般財団法人西南一粒の麦基金です。建学の精神に基づいた小学生の将来のための事業として、無料英会話教室を開設されました。

最後に、聖書の言葉を紹介します。「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたし（イエス）があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」（ヨハネによる福音書13章34節）



西南学院理事長・院長
G.W.バークレー

写真：聖書（西南学院大学博物館蔵）

「巻頭特集」

西南学院と ボランティア

創立から100年の時を経て、現在では1万人を超える学生、生徒、児童、園児が学ぶ西南学院。近年では、各学校・園・保育所においてボランティア活動が盛んになっています。西南学院は、ボランティア活動を建学の精神の具現化並びに学院の社会貢献活動のひとつと位置付けています。今号の特集では、西南学院のボランティア活動の現状をお伝えいたします。



解体後の門扉屋根瓦の選別作業（熊本県阿蘇郡西原村にて）

西南学院広報誌 赤煉瓦通信

～一粒の麦から～

Vol.4 第4号 2018

西南学院

INDEX

院長コラム	1
「巻頭特集」西南学院とボランティア	2
西南学院中学校・高等学校の取り組み	3
西南学院大学の取り組み	5
西南学院小学校の取り組み	7
西南学院舞鶴幼稚園・西南学院早緑子供の園でのボランティア教育	8
「特集2」西南学院リレーション対談	9

卒業生からのメッセージ	11
学院メモリアル	13
学びの現場から	14
SEINAN TOPICS	15
西南学院創立100周年記念募金事業報告	19
学院のフィールド	21
西南学院からのお知らせ	22
西南学院概要	裏表紙

西南学院中学校・高等学校の取り組み

2つの募金活動を軸とした 生徒主体のボランティア活動。

西南学院中学校・高等学校では、共同でボランティア活動を行っています。12月の「クリスマス街頭募金」や3月の「震災忘れない募金」、熊本地震被災地でのボランティア活動など、人と人の助け合いを感じる事ができる、貴重な機会です。生徒たちは、学外でも聖書の教えに基づき、他者に寄り添う隣人愛の精神を学んでいます。



昨年12月に開催された「クリスマス街頭募金」。西新・藤崎の商店街を中心に募金を呼びかけ、合計約24万円を託されました。

感謝の思いを受け継ぎ
次の世代へとつなげる教育。



西南学院中学校・教諭
たしろ まきこ
田代 真紀子

九州北部豪雨災害などの報道を見て、「自分も何かしたい」と考える生徒が多くなったと思います。チャペルで震災を体験された方のお話を聞いて、「この気持ちを行動に移さなければ」と考えた生徒もいます。

そのような思いで参加した募金活動の中、先輩の一生懸命な姿や地域の方々呼びかけを真摯に受け止めてくださる様子から、生徒たちは活動の意義を改めて実感するようになります。また、中高の垣根を越えて、「他者のことを覚え、思いを馳せる」という思いを共有する良き交流の場となっているようです。

生徒たちには、たとえ小さな一歩でも「誰かのために」という思いは、多くの人につながる、いずれば社会をも変える力になることを学んでほしいです。そして、生徒たちが自ら行動できる機会をつくるのが私たち教師の使命だと思っています。

「自分自身を愛するように
隣人を愛しなさい」



西南学院高等学校・
宗教主任(教諭)
ばん どう しろう
坂東 資朗

7年前、東日本大震災が発生した翌日に生徒や卒業生たちから声が上ががり、募金箱を手に街頭に立ちました。「親戚が仙台にいる。このお金を届けてほしい。」——おばあちゃんから小銭がたくさんつまった大きな瓶を預かりました。あの重さと声は忘れることができません。この活動が翌年から「震災忘れない募金」となり、現在も継続して行っています。クリスマスと3月の2回の街頭募金は、ともに寒い時期に行うため時間的には長くありませんが、「行つて、あなたも同じようにしなさい」と聖書の言葉を学んだ生徒たちが他者を思う心を行動で表す貴重な機会です。自己責任が当然視され、課題の中にある方々への不寛容が深まりつつあると思える社会にあつて、地域の皆さまのあたたかな思いに触れることは教科書を超えた生きた学びであると感謝しています。

生徒の声

人のために何ができるか、
そのことを考えて行動。



西南学院中学校3年
(ハンドボール部)
ふじ うら りり こ
藤浦 里々子さん

ハンドボール部のキャプテンとして、部員と一緒に毎回募金活動に参加しています。キャプテンに就任した際に、部全体で「人のために動く」という目標を立て、ボランティア活動にも積極的に参加しようと決めました。顧問の先生から「試合には普段の生活が表れる」と教えていただいたのですが、募金活動をしていると本当にその通りだと実感します。以前よりも、チームや周りの人のために何ができるかを考えながら行動するようになりました。

たくさんの方からいただいた募金、災害で普段の生活を送れなくなつた方への助けにつながっているという思いが活動に参加する度に強くなっています。以前は震災のことは他人事のように思っていたところがありました。が、今では普段の生活の中でも震災のことを考える機会が多くなりました。

地域の方々の気持ちを預かり、
思いを伝える手助けに。



西南学院高等学校1年
うし じま だい き
牛島 大稀さん

西南学院中学校3年生の時、生徒会長として、また、サッカー部の一部員として、募金に参加していました。生徒の中には、大きな声で呼びかけることが恥ずかしく、最初は照れながら募金の呼びかけをしてしまう生徒もいました。被災地の方の暮らしを思うと心苦しく、そんな態度で臨んではいけないと強く感じました。そこで自分が募金活動の意義を伝え、今では全員が積極的に取り組んでくれています。これからは後輩たちが伝えていく番です。そのために、より団結して活動に取り組んでほしいと思います。

募金してくださる方の中には、「頑張つてね」と差し入れをくださる方もいらつしやいます。自分たちを信頼して気持ちを預けてくださることは感謝してもしきれません。被災地の方々と地域の方々をつなぐ手助けができて、うれしく思います。

自らの目で見て伝え、
周囲を巻き込む力を身に付ける。



西南学院高等学校3年
(生徒会)
てつ じま はる き
鉄島 大貴さん

熊本地震後、聖書科の先生がボランティアをしていることを授業で知り自分も力になりたい、と強く思い、生徒会の有志が集まり、学校の活動外で昨年の6月に熊本県益城町を訪れました。震災発生から1年以上が経過していましたが、いまだにげきが多く残っている現状にショックを受けました。さらに印象に残っているのは、避難所の子どもたちが初めあまり心を開いてくれなかったことです。心の傷がまだ癒えていないのだと現地スタッフの方にお聞きしました。

ニュースでは報道されていない現状を多くの人に知ってもらいたいと思い、全校生徒の前でボランティア活動の報告をしたところ「次回は自分も行きたい」という声が多く上がり驚きました。自ら体験し発信することで、他の人を巻き込んでいけると実感しています。この貴重な経験を今後に生かしたいです。

ボランティアクラブ「インターアクト部」
西南学院高等学校のボランティアクラブ「インターアクト部」。
奉仕の精神に基づき地域へのボランティア活動を行っています。



左から、出利葉由麻さん、石谷梨緒さん、森真乃さん

西南学院高等学校3年 森 真乃さん
災害の報道を見て、困っている人たちのために何かしたいと考え、インターアクト部に入部しました。個人では難しいような支援も団体ならできることがあることを実感しています。

西南学院高等学校3年 石谷 梨緒さん
震災の記憶が年々薄まってく中で「震災忘れない募金」という名前の通り募金の呼びかけから地域の方々に知ってもらふ、思い出してもらふことに意義があるのだと感じています。

西南学院高等学校3年 出利葉 由麻さん
インターアクト部の役割はただお金を預かって送ることではなく「思い」を預かって届けること。活動の度に募金の呼びかけが力になることを実感します。だからこそ強く発信し続けたいです。

西南学院大学の取り組み

建学の精神を具現化し、社会に貢献する。
ボランティアセンターを中心に、学生・教職員の
ボランティア活動を支援、促進。

災害ボランティア

東日本大震災をはじめ、2016年4月の熊本地震、2017年7月の九州北部豪雨など、災害支援のボランティア活動をしています。これまでに、西南学院大学の学生と教職員を合わせて、1107名が被災地で活動。熊本地震や九州北部豪雨では、災害ボランティアセンター本部の運営スタッフとして、いち早く現場に駆けつけました。いまだに震災の爪痕が残っている東北地方では、交流中心の傾聴ボランティアを毎年行っています。現地の人との交流や家屋の解体作業など活動内容は多岐にわたり、日帰りから長期滞在まで活動日数もさまざまです。福岡に帰ってきた後も、募金活動や活動報告会で情報発信に取り組みなど、福岡からできる支援も続けています。



被災地の方々と協力しながら、さまざまな活動や復旧作業に従事しています。他大学の学生と力を合わせて作業に取り組み、交流することもあります。



支援をすることで地域に深く関わり、第二の故郷のように感じる学生もいます。

これまでの現地での活動参加人数

(2018年3月末現在)

- **東日本大震災**
7年間 延べ活動者 75チーム 611名
- **熊本地震**
2年間 延べ活動者 18チーム 170名
- **九州北部豪雨災害**
東峰村ボランティア
日数: 2日 / 延べ人数: 11名
うきはベース(1st)
日数: 21日 / 延べ人数: 43名
うきはベース(2nd)
日数: 33日 / 延べ人数: 137名
うきはベース(日帰り)
日数: 4日 / 延べ人数: 135名

ボランティアの「点」の活動を、「線」としてつなぎ、つむいでいく。



西南学院
総務部 キリスト教活動支援課
ボランティアセンター事務局 副課長
やまぐち ゆみ こ
山口 由美子

当センターは東日本大震災を機に、2012年7月に開設されました。被災地支援を行う災害ボランティアをはじめ、海外(国際交流)、福祉、教育など、幅広い分野で学生たちの活動を支援しています。

九州北部豪雨では、地元大学として、福岡県やNPO、他大学と一緒に全国から来てくれる大学生の無料宿泊拠点及び情報共有・発信の場である「うきはベース」を運営しました。大学を超えて交流し、一緒に活動することで、自然と学生たちのネットワークが広がります。また、現地でしか分からない状況や支援で培った防災のノウハウを、参加した学生たちが報告会や講義などで他の学生に伝えることで、災害支援や防災への意識を高めています。そうして一人ひとりの「点」の活動を「線」としてつなぎ、つむいでいくことを大切にしています。

海外ボランティア・ワークキャンプ

2003年から毎年フィリピンのマニラ郊外に学生たちを送り出し、ワークキャンプを実施しています。貧困地域に住む子どもと交流したり、校舎の修理など、地元の人と密接に関わるボランティアです。日常生活が「当たり前」ではないことに気づき、自分の置かれた環境に「感謝」の気持ちが芽生え、価値観が大きく変わる学生がたくさんいます。



現地の人たちは、心が豊かで笑顔にあふれています。

学生サポーター

福岡県の各市区町村教育委員会と連携して実施している制度です。地域の小・中学校や特別支援学校で、先生の授業の補助やクラブ活動のサポートをしています。社会人としての経験に加え、教育現場で児童・生徒と直接接することで教育活動を体験できる貴重な機会となっています。教師を目指す学生はもちろん、教職を履修していない学生も教育現場を体験できる活動です。



学生にとって、教育現場での子どもたちとのふれあいは貴重な経験です。

久山療育園ボランティア

西南学院と深い関係にある「久山療育園重症児者医療療育センター」と定期的に交流するボランティア。施設のスタッフやボランティアを実施したり、開園祭のバザーを手伝ったりしています。施設の入所者だけでなく、保護者の方やボランティアの方、また、スタッフの方々との交流を通して、コミュニケーションについて学んだり、笑顔の励ましを感じることができる活動です。



利用者の方との交流で、学生も元気をもらいます。

学生の声

自分の変化を感じる、
海外でのボランティア経験。



西南学院大学
商学部 商学科 3年
かわ たに もも こ
川谷 桃子さん

私は入学当初、「自分のため、人のために何かしたい」という漠然とした思いでボランティアを探していました。

1年生の春休みに「海外ボランティア・ワークキャンプ」に参加し、フィリピンの貧困地域で保健室を作ったり、日本の歌を教えたり、さまざまな支援をしました。現地の人とのコミュニケーションはつたない英語。それでもたくさんの人と仲良くなったことで英語に興味が増え、帰国後に英会話サークルに入りました。また、ボランティアセンターの学生スタッフ「OPEN」のメンバーにもなりました。ボランティア活動をした後、「何かをしたい」「自分を変えたい」という思いが強くなったのです。ボランティアに参加することで、たくさんさんの活動や人に出会い、自分の視野を広げることができました。これからも幅広い活動に参加して自分を成長させていきたいと考えています。

活動を通じて成長を実感、
笑顔と言葉に支えられる。



西南学院大学
人間科学部 心理学科 4年
かた しま こう だい
堅島 浩太さん

高校生の時、老人ホームにいる祖父が学生ボランティアと楽しそうに話す姿を見て、ボランティアに興味を持ちました。高校生の頃は行動に移せませんでしたが、大学に入り福祉系のボランティアをしている「ワークキャンプ部」に入部しました。2年生の春休みに参加した熊本地震ボランティアで、復興支援をしている学生ボランティア団体「いと」に出会い、福岡からできる支援活動が続いています。支援した人からいただく笑顔や「また来てね」「ありがとう」という温かい言葉。それらが次の活動に向かう原動力です。

ボランティア活動は自分で考えて行動することが重要です。活動が続けるうちに自分の意思で物事を決められるようになります。将来は臨床心理士を目指しているのですが、被災地支援や人との関わりはとても勉強になります。

西南学院小学校の取り組み

「自分にできること」を考え、
行動する心を育てる学び舎。

西南学院小学校では、ノート、えんぴつ、消しゴム等の文具を集めて被災地やネパールの子どもたちに送る活動を継続して行っています。また、西南学院大学とも連携し、学生ボランティアや神学部の子生と協力して物資支援をするなど、学院全体で社会問題を考える取り組みをしています。これからも、聖書の教えを土台として、行動することができる子どもたちに育ってほしいと願っています。

聖書の教えを土台に
子ども主体で取り組む。

西南学院小学校 教頭 **黒木 佐幸**



「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイによる福音書22章39節)

子どもたちは、この聖書の言葉に礼拝や聖書の時間を通して繰り返し触れてきています。また、職員の中には、途上国で教育貢献活動をしてきた者が何人もいて、その活動の話を聞く機会も与えられています。そういった中で、「困っている方のため、自分たちにできることがしたい」という声子どもたちの中から上がってきました。そして、6年生で構成される宗教委員会を中心に、文具を集めて必要としているところへ送る活動が始まりました。企画・収集・送付準備までの一連の活動を子どもたち自身が行っています。集めるのは、新品の文具です。自分が大切にしていたキャラクターの鉛筆やノートを送る子どもたちもいます。収集期間は一週間と短いながらも毎回段ボール数箱分がいっぱいになります。昨年は、九州北部豪雨の被災地や西南学院大学の学生ボランティアの方たちの依頼を受けてカンボジアにも送ることができました。

さらに、毎年行っている「クリスマス献金」では、子どもたちが欲しいものを我慢してためたお小遣いや、お手伝いをしてもらったお金を捧げ、被災地や西南学院中学校出身の中村哲先生が代表を務める「ペシヤワール会」などに寄付をしました。西南学院で学ぶ中で、「自分にできることから行動したい」という気持ちが子どもたちに芽生えてきていることをうれしく思います。



自分のためだけではなく、
〴〵相手を思いやることを身に付けること。

西南学院舞鶴幼稚園

年少児から年長児まで、
園での生活や活動を通して、
他者のために動く喜びを知る。

西南学院舞鶴幼稚園 教諭 **永尾 雄治**



園児はみんな積極的にクラス活動に取り組みます。

舞鶴幼稚園では、年少児・年中児は「当番活動」、年長児は「係活動」「リーダー活動」という活動に取り組んでいます。みんなのために動くことで、自然と相手を思いやる心が芽生えるのです。また、子どもたちは、私たち教師が泣いている子や一人で過している子に声をかける姿を見て関わり方を学びます。年長になる頃には困っている人を助けたり、手伝ったりすることが自然にできるようになります。人のために動くことの大切さや喜びを感じる心を育成する。私たちは、それこそがボランティア活動に通じる「社会に奉仕する心」につながっていくと考えています。

西南学院早緑子供の園

大切にしたい思いやりの気持ち。
園児との日々の関わりの中で、
「共感する力」を育む。

西南学院早緑子供の園 主任保育士 **土田 珠紀**



心静かに、神さまとお話するようにお祈りをします。

早緑子供の園では、思いやりの気持ちは「自分を大切に思う」ことから芽生えると考えています。日々の保育の中で保育士が、赤ちゃんと目が合ってから抱き上げたり、「おむつを替えるよ」と声をかけてからズボン脱がせたりすることで、自分が大切にされていると感じます。自分の存在が尊ばれることから、相手のことも大切にしたいという気持ちが生まれます。3歳から5歳の子どもたちは、礼拝の時間に家族や友だち、身のまわりのことからについてお祈りをします。目の前にいない人や目に見えないことに思いを馳せ、関心を持ち、共感する力の土台を育んでいきたいです。

一人ひとりの賜物を育む教育を目指して

— 児童・生徒一人ひとりには、神様から与えられた賜物がある —

西南学院ならではの教育で、
人格形成をより豊かなものに。

副田

西南学院小学校の創立準備から携わっていらっ
しやる原口先生から見て、西南学院のキリスト教
教育が児童にどのような影響を与えているとお感
じになりますか？

副田 中学校の生徒たちも、日々、キリスト教に
基づく生き方に触れていく中で、平和
や人権について
深く考え、成
長と共に社
会貢献や海
外のニュー
スにも興味

原口 西南学院小学校が創立され、今年で8年目を迎え

西南学院
小学校
×
西南学院
中学校

先生、語り合う

ました。小学校でも中学校と同様、チャペルの時間
やブックタイムが設けられていますが、祈りで始ま
り祈りで終わる、礼拝の時間があることは、子ども
たちの心の成長に大きな影響を与えていると思い
ます。低学年の場合、まずは礼拝の時間に慣れ親し
むところから始まりますが、日々、自分と向き合う
ことで豊かな人間性が育まれていると感じます
ね。学年を追うごとに成長し、卒業文集では「こん
な職業に就きたい」というよりも、「こんな人にな
りたい」と、人格について掲げている児童が多いの
が印象的です。中学校はいかがですか？

を持つようになって
いきますね。年2回、
外部から特別講師を
お招きし、特別礼拝とし
てミッションウィークを行っ
ています。多感な時期に聞いた体
験談というのは心に残るようで、「海外で社会貢
献できるような生き方をしたい」と志す生徒もい
て、その後の進路に大きく影響を及ぼすことも少
なくないようです。

小学校・中学校が連携することで
きめ細かな教育を。

原口 小学校の創立準備期間中は中学校に準備室があつ

たこともあり、今でも小学校・中学校の教師同士の
絆も深く交流も多くなっています。最近ではマナー
アップの標語ポスターを作るにあたって、絵は小学
校の児童から、標語は中学校の生徒から…という
ような共同での活動も行いましたね。

副田 部活などの小単位での交流、そして小学6年生に
なると中学校の授業を体験する「出前授業」が行わ

原口

れるなど、小学校と中学校とは交流がありますが、
標語ポスターのように授業以外での新しい関わり
が持てたことは良い試みだったと思います。

副田

小学校と中学校が隣同士なのがいいですね。学
校行事などで小学校から中学校に進学した子たち
に会う機会がありますが、児童から生徒へ、より遅
しく伸び伸びと成長している様を間近で見ること
ができ、とても嬉しく思います。今後はさらに小学
校と中学校が連携を深められればいいですね。

原口

そうですね。先日は小学校から中学校に進学する
子たちについて、引き継ぎを行う会議がありまし
た。小学校は2クラスということもあり、どの先生
方も子どもたちの個性をよく見ておられ、非常に
細やかな指導をされていることがよく分かりまし
た。子どもたちは幼馴染みのように仲が良いです
ね。兄弟姉妹で通われているお子さんも多いです
ね。中学校から西南学院に入ってくる生徒たちも、和
やかな雰囲気があるので、溶け込みやすいよう
です。先生は授業面で日々、心掛けていることはあ
りますか？

原口

よりレベルの高い学力を身に付けてもらいたいとい
う思いもありますが、まずはその土台となる基礎学
力を身に付けることが大切だと思っています。より
多くの問題を解かせて…というような中学校に入
るための知識をつけるというような考え方でなく、
バランスの良い授業を目指しています。新学習指導
要領を上回る授業数が確保されていますので、児童
が発言する場をなるべく多く設け、自主性・主体性
を発揮できるように授業を心掛けています。

伝統を大切にしつつ、
これからも児童・生徒の成長を見守る。

原口

中学校では日々、どんなことに目を向けた教育を
されていますか？

副田

中学校は、高校・大学、または社会での自分に思い
を向け、将来の姿を見出そうとする時期です。それ
ぞれの持つ個性や特性を、神様からお預かりした
賜物として伸ばし、どのような形で社会に貢献し
たいのかを考えながら学びを深めてほしいと思っ
ています。そのため、私たちは生徒一人ひとりと向
き合う時間を大切にしています。

原口

また、近年はインターネット上の人権問題について
考える機会を持つようになりました。世の中が多
様化している今、より時代にあった教育が求められ
ています。学習面でのサポートはもちろん、一人ひ
とりの個性やニーズに合わせた教育を、これから
も意識していきたいと思っています。

副田

それは小学校でも同じですね。根幹となる教育理
念は大きく変わりませんが、常に指導やカリキュ
ラムを見直しています。これからも西南学院の伝
統を守りつつ、内向きにならないように視野を広げ
ながら、子どもたちが伸び伸びと育つ学びの環境
を整えていきたいですね。

先生、今日はありがとうございました。

こちらこそ、ありがとうございました。これから
も子どもたち第一の姿勢でお互い頑張っていきま
しょう。

西南学院小学校・教諭

原口 創

西南学院中学校・教諭

副田 彩音

MESSAGE FROM THE GRADUATES

卒業生からのメッセージ

伸び伸びと野球を楽しめた高校時代が
プロへのチャンスを拓くきっかけに。

プロ野球選手
「東北楽天ゴールデンイーグルス」

田中 和基さん

2013年 西南学院高等学校卒業

父の勧めもあり、西南学院高等学校に入学しました。当時から歴史ある良

い学校という印象でした。入学当初はチャペルや聖書の授業に少し戸惑いましたが、社会人となった今でも、街中で讃美歌を耳にすると高校時代を思い出します。今思えば、心休まる良い時間だったと懐かしく思います。

野球を始めたのは二人の兄の影響で、小学3年生の時からです。高校では2年生の人数が少なかったこともあり、捕手に抜擢され、1年生の夏からベンチ入りすることができました。グラ

ウンドは中学校と共用で、さらに午後7時半には下校しないといけなかった。練習時間は少なかったですね。グラウンドのライト方向が狭かった。ホームランを狙うために苦肉の策で生きたのが、両打ちです。決して恵まれた練習環境ではありませんでしたが、野球でプロの道に進めたのは、伸び伸びとした環境で野球を楽しむことができ、スイッチヒッターとして、自分の野球スタイルの基盤を作ることができたからだと思っています。

高校時代の友人はかけがえのない存在で、今でも一番仲が良いです。先生とも交流があり、「福岡ヤフオク!ドーム」での試合や帰省の度に、応援にきてもらったり高校まで会いに行っていました。



【プロフィール】1994年生まれ。西南学院高等学校時代は捕手を務め、立教大学入学後に外野手へ転向。2016年のドラフト会議で東北楽天ゴールデンイーグルスから3位指名を受け入団。俊足強肩、パワフルな打撃が持ち味のスイッチヒッター。



©Rakuten Eagles

す。良い友人、先生に恵まれたと、いつも思っています。まだプロ入り2年目ですが、今季の目標を昨シーズンの数字の倍と定め、将来的にはトリプルスリー（打率3割、本塁打30本、30盗塁を狙えるようになりますね。

西南学院はチャレンジしたいという生徒の意思を尊重してくれる学校です。私は兄が医学部に進んだこともあり、進学に関しては当初、理系を選択していました。その後、大学でも野球を続けたいという夢が芽生え、先生方の理解もあり、文系クラスへ進むことができました。その結果、指定校推薦で進学でき、プロへのチャンスを掴むことができました。

西南学院には、夢や希望に向かって努力する背中を押してくれる先生方がたくさんいます。ぜひ、やりたいことを見つけて、目標に向かって精一杯、頑張ってください。

大学で得た多くの出会いが、
自分の世界を広げてくれた。

作家

沼田 真佑さん

2002年 西南学院大学商学部卒業

入学前から、西南学院大学にはおしやれなイメージを持っていました。

西洋的な趣のあるキャンパス、チャペルの神聖なたたずまい……。私は、幼い頃からヨーロッパのモダンな世界観が好きで、そのイメージと、西南学院にある洗練された雰囲気とが少し似ていたのかもしれない。進学を決める際も、西南学院へのそうした憧れがひとつの決め手となったような気がします。

学生時代は、教授や友人をはじめ、さまざまな人と触れ合うことができました。それまで人と接することに積極的

でなかった私にとって、大学での出会いが、自分を取り巻く世界を広げてくれたと思います。

私は商学部在籍していましたが、簿記などの授業で使う教科書も、読み物として楽しく読んでいました。感情の入りこまない文章の羅列であるのに、どこか書き手の癖や性格が潜んでいて、それを読み解くことに楽しめてしまう。これは私の癖で、簿記を学ぶ学生としては正しい読み方ではありませんが、そんなあの頃を今、懐かしく思い出します。

西南学院には、一人ひとりの個性を大切にしている雰囲気があります。個々を自由にさせてくれる環境は心地よいもので、自由業である作家という仕事を手にした今の私の、ある一部分を育ててくれ

た場所だとも思います。

大学卒業後は10年ほど学習塾に勤務し、子どもたちと触れ合ってきました。そんな私が今、西南学院で学ぶ皆さんに伝えたいのは、ぜひ、さまざまなことに触れて多くの『感銘』を受けてほしいということです。「この人、すごいな」と受けた感動を心に刻む。偉人たちの伝記を読んだり、アスリートの頑張る姿を見るのもいいでしょう。私も幼い頃から伝記を多く読み、感銘を受けました。キユーリー夫人が何をやった人なのかよく分からなかったけど、分からないながらも「すごいな」と感じることはできた。その感銘が、心を太く育ててくれるような気がします。ぜひ、西南学院で学ぶ皆さんにも多くの感銘を受けて、心を育ててほしい。それが今、私から皆さんに贈りたいメッセージです。



【プロフィール】1978年生まれ。北海道・小樽市出身。西南学院大学商学部を卒業後、塾講師を経て執筆生活に入る。東日本大震災をテーマにしたデビュー作「影裏（えいり）」で第157回芥川賞受賞。岩手県盛岡市在住。



『影裏』
沼田真佑／著
2017年 文藝春秋
1,080円（税込）

会社の出向で移り住んだ岩手の地で、ただひとり心を許した同僚との交流。自然豊かな岩手の木々や溪流を背景に、釣り、LGBT、東日本大震災など、さまざまな要素を散りばめながら、崩壊の予兆と人知れぬ思いを繊細に描き出す。



西南学院早緑子供の園・
管理栄養士

たなか あい
田中 藍

学びの現場から① 給食

西南学院早緑子供の園

当園には、0～5歳児の子どもたちがいます。発達段階がそれぞれ違うので、一人ひとりにあわせた給食を作ることが大切です。乳児（0～2歳児）クラスでは、ミルクから離乳食まで、使う食材や形状も段階を追って進めていきます。食物アレルギーのあるお子さんには、見た目の違いから寂しさを感じないように工夫し、時にはハンバーグのような人気のメニューに変えています。また、子どもの食事に対する感覚は



楽しくおいしい給食は、子どもたちの心と身体の栄養となります。

大人とはかなり違います。例えば、おやつに手づくりの大きなまんじゅうを出した時、ほとんど食べずに残ったことがあります。残すには理由があると考え、次の機会に、ひと口大にしたところ、みんなたくさん食べてくれました。このように、色味や食べやすさなども工夫しています。赤ちゃんにとっては、当園で初めて食べる食材に出会うかもしれません。だからこそ、給食を通しての食育が、おいしく食べ、その子の一生を通しての心と身体の健康を支える土台を築くことにつながると考えています。幼児（3～5歳児）クラスで、旬の野菜や季節の行事にまつわる食べ物を提供する時は、その意味や歴史を説明するようにしています。例えば、おやつが七草粥の日、七草を実際に見せて、その名前や七草の由来を話しました。ちょっとした働きかけが食育につながっていきます。子どもたちの給食の時間が、より楽しくなものとなるように、心を込めて、給食づくりに努めていきたいと思っています。



西南学院舞鶴幼稚園・
主任教諭

たら けん
榎崎 賢

学びの現場から② リズム運動

西南学院舞鶴幼稚園

現代は昔に比べて生活環境が変化し、子どもたちが自然の中で身体を動かす場所は激減しています。40年以上前から子どもの身体の育ちがおかしくなってきたことが、さまざまな研究で明らかになっています。当園では子どもたちの身体の正常な育ちを保障するために1980年から「リズム運動」を始めました。リズム運動は埼玉県の「さくら・さくらんぼ保育園」の故・斉藤公子元園長が脳科学の専門家と共に考案した、乳幼児の身体づ



子どもたちは50種類以上ある複雑なポーズを難なくこなします。

くりのための運動です。リズムミカルなピアノの伴奏に合わせて「バラ」や「カメ」などのポーズをとったり、「メダカ」や「汽車」になつて思い切り走ったりします。舞鶴幼稚園では毎日、朝の集まりの時にリズム運動をします。園児たちはリズムに合わせて、いろいろな動きを楽しく行っていますが、実際に保護者の方に体験してもらったところ「これはきついね」と言われるくらいハードな運動です。3年間続けると、身体の動き方は格段に力強く美しくなっています。その毎日の運動の中で、私たちが気を付けているのは、楽しく身体を動かすことや、やってみたくていう意欲を引き出すことです。そのために、年長児がお手本として年少・年中児に見せたり、動きの種類や速さに変化をつけたりなどの工夫もしています。子どもの育ちに必要なくたくましく、しなやかな精神は、同じく健康に育った身体と共にあります。リズム運動は、自然の中で遊ぶ機会が減り失われていった子どもたちの生きる力を養うことにつながっていると感じています。

学 GAKUIN MEMORIAL 院 メモリアル



宣教師記念碑（2008年5月設置）

西南学院は1916年の創立以来、アメリカ南部バプテスト宣教団との関係を保ちながら歴史を重ねてきました。創立者C・K・ドージャーが種を蒔き、多くの宣教師によって水と光が注がれ、西南学院は発展してきました。西南学院における宣教師は、西南学院につながる者にとって大きな心の支えとなる存在でした。

しかし、西南学院への宣教師派遣は、2004年9月のL・K・シート、H・C・ジョンソン両名の退職によってひとつの区切りを迎えました。その2年後、寺園喜基院長（当時）の「宣教師への感謝の気持ちを表すために記念碑を建てることにより、永く宣教師の功績を顕彰したい」という考えのもと、記念碑が設置されることになりました。西南学院同窓会から設置費の支援もあり、2008年5月に大学博物館（ドージャー記念館）の西側に完成。5月15日の学院創立記念日に除幕式が行われました。

記念碑は書物台に聖書を開いた形をイメージして、重さ約1トンの黒御影石で作られています。西南学院に奉職した宣教師79人の名前と在籍年が刻まれており、西南学院の草創期から2004年の宣教師派遣終了まで、多くの宣教師の奉仕と祈りによって西南学院が大きく育ってきたことを静かに物語っています。

西南学院早緑子供の園

一人ひとりの誕生日

「私は小さな灯 光りましよう」という歌とともに、各クラスで誕生日を迎える子を囲み、その子が生まれたその日に、ろうそくに火を灯します。まだ意味が分からない0歳児の幼い子どもも、「何かうれしい日」「この子が主役の日」ということを感じているようです。

会では、保育者がその子が好きなわらべうたやお話、手作りプレゼントを贈ります。保護者の方にも、その子が育ってきた日々を写真で綴ったポスターを制作していただき、保育室に飾ります。

誕生会は、みんなで一人の子に注目し、祝い、その子の存在そのもの、そして、命を尊ぶ時として、大切にしています。



育児講座（保護者・地域の方対象）
『親子で聴くいのちのお話』

1月27日、助産師として多くの命の誕生に立ち会った中、3・11東日本大震災を機に命の大切さ、尊さを伝えるための講演を続けている大場瞳氏をお迎えしまし

た。当日は子どもたちも参加し、お母さんのおなかで育まれ、命の扉を開けて誕生する赤ちゃんの生命力を、具体的な映像や実物大の人形（写真左下）などを通して、見て、聴いて、感じる時間となりました。その後、子どもたちは、よく出産について話をしています。

お人形を服の中に入れて病院を受診し、医師や看護師役の子に助けられて出産し、無事に生まれた赤ちゃんは布に包まれ、とても大切に扱われています。遊びの中で、命に注目することはもちろん、お母さんの気持ちそのものを体験し、自分の存在感や家族の愛情を感じているようです。



西南学院早緑子供の園 年間スケジュール

- 2018年
4月2日 入園式
4月28日 親子遠足
5月15日 学院創立記念日
5月25日 社会見学①
6月23日 育児講座
7月7日 こどもまつり
9月7日 お泊まり保育（～8日）
10月5日 社会見学②
10月20日 運動会
12月8日 こひつじクリスマス（0、1、2歳児）
12月22日 さみどりクリスマス
2019年
3月5日 卒園礼拝
3月23日 卒園式

西南学院舞鶴幼稚園

たてわり活動

舞鶴幼稚園では、普段は年齢によってクラスを分けている横割りの保育を行っています。学期に数日、全学年一緒に活動をする「たてわりの日」があります。

一緒にリズム運動やわらべうたをしたり、遊びものを作ったり、お弁当を食べたりして、年長の子は年長児の自覚を持って年少・年中児に優しく関わります。年少や年中の子は、年長児のかっこいい姿を見たり優しく教えてもらったりする中で、年長への憧れを強めていきます。そして、そのような姿に自分もなりたいという思いを持ちながら、年長クラスの光組になる日を迎えるのです。たてわり活動は、かつて自分がしてもらったように下の学年の子に関わるというつながりがずっと続いている大切な活動です。



雪が降ったら雪遊び！

2月、福岡ではめずらしく、たくさん雪が降りました。うっすら地面が白くなるくらいの雪でも子どもたちは大喜びです。ここぞとばかりに雪遊びを楽しみました。

がんばってかき集めた雪で小さい雪だるまづくり。友達や教師と投げ合う雪合戦。交替で引つ張る雪ぞり。吹雪のように降る雪の中にかくはしゃいで走り回る子どもたち。寒さを吹き飛ばすほど遊びました。

一年の中にはその季節にしかできない遊びがあります。春には草花遊び、夏には水遊び、秋にはどんぐり遊び、そして冬には雪遊び。子どもにとって寒さ厳しいこの季節にも遊びの芽はいたるところにあるのです。



西南学院舞鶴幼稚園 年間スケジュール

- 2018年
4月13日 入園式
5月15日 学院創立記念日
7月16日 年長児合宿保育（～18日）
7月20日 水と土とあそぼう（未就園児対象）
9月8日 まいづるまつり
10月6日 入園説明会
10月13日 運動会
10月25日 年中児お泊まり保育（～26日）
12月15日 クリスマス祝い
2019年
2月 春を呼ぶ会（生活発表会）
3月3日 卒業礼拝
3月16日 卒業式
3月23日 子ども同窓会

西南学院小学校

明るい「あいさつ」って気持ちがいいね

本校では、今年度『あいさつで笑顔あふれる西南学院小学校』をモットーに、子どもたちにあいさつの大切さや必要性について指導してきました。計画委員会の6年生を中心に「あいさつ隊」を編成し、登校時に校門であいさつ活動を行いました。朝から元気なあいさつがあふれると気持ちがいいものです。自分から、相手の目を見て、笑顔であいさつをすることは、他者を思いやることにつながり、ひいては、隣人を育むことにつながると期待しています。

校内でのあいさつはぜひふんと板についてきた子どもたちですが、学校の外に出ると、なかなかあいさつができていない、というのが現状です。

今後は、校外でも、地域の方々へ積極的に元気なあいさつをしてもらいたいと願っています。



感動あふれる
「スポーツフェスティバル」開催！

2017年10月7日、澄み渡る青空の下、第8回スポーツフェスティバルが開催されました。子どもたちは青組と白組に分かれ、「あきらめずがんばる者」に勝利

あり！」のスローガンのもと、全力で競い合いました。子どもたちは、すべてのプログラムにおいて素晴らしいパフォーマンスを見せてくれましたが、今年は特に応援の素晴らしさが印象に残りました。応援席で全学年が一体となって応援する姿や、最後までがんばる相手ブロックにも声援を送る姿に強く心を打たれました。

開校以来、本校ではスポーツフェスティバルの聖句は、「コリントの信徒への手紙9章24～25節」を選んでいます。このスポーツフェスティバルを通して、子どもたち一人ひとりが「朽ちない冠」について考え、そして、それを得ることができたと感じています。



西南学院小学校 年間スケジュール

- 2018年
4月10日 第9回入学式
5月15日 学院創立記念日
5月28日 春季ミッションウィーク（～29日）
6月30日 学校公開・説明会
9月1日 入学説明会
10月7日 スポーツフェスティバル
10月15日 秋季ミッションウィーク（～16日）
12月20日 クリスマスチャペル
2019年
2月8日 学習発表会
3月15日 第6回卒業式

西南学院中学校

学院創立100周年を機に「体育祭」に名称変更しました

2017年9月18日、西南学院中学校体育祭を開催しました。2016年に創立100周年を迎えましたが、次の100年に向かって新しいプログラムを取り入れ、名称も体育大会から体育祭に変更しました。また、2016年から組んでいる応援スタンドでは、各ブロック対抗の応援合戦だけでなく、学校応援と題してパネルで九州北部豪雨や熊本震災の被災地を激励するメッセージを伝えるエールを送りました。

西南体操や生徒たちで考えて作ったマスゲームなどのほか、全校生徒と保護者の皆さまと一緒に百道浜音頭と炭坑節を踊り、来場者の皆さまと共に楽しめる体育祭となりました。



和楽器鑑賞会を行いました

2017年12月14日、中学校・高等学校チャペルにて、和楽器集団「独楽」による和楽器鑑賞会を行いました。

演奏の最初から勇ましい和太鼓の音がチャペル内

に響き渡り、その振動が直接身体に響き、その世界観に生徒たちが一瞬にして引き込まれました。

演奏が素晴らしいのもさることながら、多くある和楽器それぞれの名称や特徴などの説明が分かりやすくも面白く行われ、充実した素晴らしい演奏会となりました。



西南学院中学校 年間スケジュール

- 2018年
- 4月7日 入学式
 - 5月15日 学院創立記念日
 - 5月21日 前期ミッションウィーク(～22日)
 - 9月17日 体育祭
 - 9月24日 オープンキャンパスI(中学校・高等学校)
 - 10月27日 新制西南学院中学校・高等学校 開設70周年記念式典・祝賀会
 - 11月3日 オープンキャンパスII(中学校・高等学校)
 - 11月19日 後期ミッションウィーク(～21日)
 - 12月18日 クリスマス礼拝
- 2019年
- 1月30日 合唱発表会
 - 3月18日 第72回修了式

西南学院高等学校

どくどくと全国大会出場！全国でめざましい活躍

2017年度も数多くの部活動生が活躍し、全国大会に出場しています。

運動部では、陸上競技部の力丸佳代さん、ヨット部の下石照くん・玉村賢太郎くん、ペラ、体操競技で村島みのりさんがインターハイに出場しました。ヨットでは男子四二〇級で準優勝しました。また、陸上競技部の中島先覚くんは男子三段跳びで日本ユース選手権大会に、弓道部は女子団体が全国高等学校弓道選抜大会に出場しました。

文化部では、放送部の國分未有さんがNHK杯全国高校放送コンテストに出場し、準々決勝まで進みました。写真部では下川真優子さんが全国高等学校総合文化祭に出場し、文化連盟賞を受賞しました。



大濠公園能楽堂で能・狂言鑑賞会を行いました

2017年5月31日に大濠公園能楽堂において「能・狂言鑑賞会」が行われました。日頃触れることのできない日本の伝統芸能に接する良い機会となりました。

鑑賞に先立ち、山本哲也先生による解説と生徒のお囃子体験教室が行われました。選ばれた生徒8人は笛・小鼓・大鼓・太鼓に分かれて事前練習をし、楽器ごとに舞台上で登場して練習の成果を披露しました。鑑賞会では、はじめに狂言「柿山伏」を、次いで能「土蜘蛛」を半能で鑑賞しました。

能楽堂の静謐な雰囲気、重厚な伝統芸能の美に触れ、大変貴重な体験をすることができました。



西南学院高等学校 年間スケジュール

- 2018年
- 4月7日 入学式
 - 5月15日 学院創立記念日
 - 5月23日 前期ミッションウィーク(～25日)
 - 7月13日 文化祭(～14日)
 - 9月5日 スポーツフェスティバル(～7日)
 - 9月24日 オープンキャンパスI(中学校・高等学校)
 - 10月27日 新制西南学院中学校・高等学校 開設70周年記念式典・祝賀会
 - 10月31日 後期ミッションウィーク(～11月2日)
 - 11月3日 オープンキャンパスII(中学校・高等学校)
 - 12月18日、20日 クリスマス礼拝
- 2019年
- 3月1日 第71回卒業式

西南学院大学

本学卒業生の沼田真佑氏が芥川賞を受賞しました

2017年8月25日、帝国ホテル(東京都千代田区)において第157回芥川龍之介賞・直木三十五賞の授賞式が行われ、本学卒業の沼田真佑(ぬまたしんすけ)氏が芥川龍之介賞の表彰を受けました。授賞式会場は、約1,000人の招待客と報道陣で熱気にあふれていました。

沼田真佑氏は受賞の挨拶で、「まだデビューして4か月足らずの若輩者だが、今回、一つだけ方針を立てた。それは、質素に暮らすということ。今日は授賞式という華やかな場だが、明日からは再び質素な暮らしに戻る」と控えめに喜びを語りました。



Seinan English Camp for Global Leadership 2018を開催しました

「Seinan English Camp for Global Leadership」(高校生対象)を3月24日、25日の1泊2日で開催しました。

この取り組みは、全国から「将来グローバルな舞台で活躍したい!」という熱意を持った高校生を募集し、本学に留学している留学生と1泊2日の日程で寝食を共にし、国際的な課題やテーマについて英語で議論し、発表するプログラムです。今回は、全国の応募者から選抜された35人(33校)の高校生と本学の外国人留学生12人、日本人学生6人が参加しました。

参加者からは、「事前課題も含めてすべて英語で苦労することも多かったが、日本の平和貢献と憲法9条というタイムリーなテーマについて英語で議論することができた。留学生にアドバイスをもらいながら、最後はプレゼンテーションを作成、発表するという大きな課題を達成できて、充実した2日間だった」という感想が聞かれました。



西南学院大学 年間スケジュール

- 2018年
- 4月2日 入学式(学部・大学院・法科大学院)
 - 5月15日 学院創立記念日
 - 5月29日 春季キリスト教フォーカス・ウィーク(～31日)
 - 5月31日 C.K.ドージャー先生記念日
 - 8月4日 オープンキャンパス(～5日)
 - 9月26日 前期卒業式・学位記授与式
 - 9月29日 第13回ホームカミングデー
 - 11月15日 大学祭(～18日)
 - 11月27日 秋季キリスト教フォーカス・ウィーク(～29日)
- 2019年
- 2月5日 一般入試(～9日)
 - 3月20日 卒業式・学位記授与式

創立100周年記念募金の主な対象事業

基本コンセプト1 人や地域との絆、感謝・貢献

西南学院百年館（松緑館）の建設

西南学院百年館（松緑館）は、2016（平成28）年10月にオープンしました。館内には、学会、講演会や懇親会などに利用できる多目的ホールや授業、会議、打ち合わせなどに利用できるセミナー室、会議室、ミーティングルームがあります。また、これまでの学院の歴史などを紹介する西南学院史資料センターを設置しています。1階のカフェでは、パンやコーヒーなども販売していますので、お気軽にお立ち寄りください。



基本コンセプト2 世界に貢献できる人間教育

グローバル人材育成事業

グローバル教育の拡大、学生を海外に派遣できる環境を整備し、世界に貢献できる人材を育成いたします。

ヨーロッパ国際機関研修～キャリアは海を越えて～（フランス・ベルギー）

OECD（経済協力開発機構）、UNESCO（国際連合教育科学文化機関）及びEU（欧州連合）を訪問し、各機関に関する調査や邦人職員への聞き取り調査を行います。

学内GP・教育インキュベートプログラム

各学部がそれぞれの特色を活かし、プログラムを行っています。一例として、法学部で実施しているインターナショナル・サービス・ラーニングプログラムは、夏季休暇中に海外・国内の社会的活動に参加し、教員のサポートを得ながら、その活動を学問的に振り返り、1万字程度のレポートにまとめます。

海外ボランティア・ワークキャンプ

日本・フィリピンの国際飢餓対策機構の協力のもと、学生たちは毎年フィリピンで奉仕活動を行っています。

国際交流

協定校	海外派遣留学生	海外からの交換留学生
2018（平成30）年 4月1日現在	2017～2018年度	2017～2018年度
26カ国89校	88名	99名

奨学金基金の創設

学生、生徒、児童、園児の修学を支援するために、創立100周年記念募金のうち、1億円を原資として奨学金基金を創設しました。

小学校グラウンド及び西南の森整備事業

小学校グラウンド及び西南の森整備事業を行いました。グラウンドは整備前に比べ、土がふかふかになり、はだしで遊んでも問題ありません。雨上がりの水はけも良くなり、スポーツフェスティバルなどで子どもたちが元気に活動しています。

中学校・高等学校の教育施設整備事業

グラウンド内各所に水溜りが現れるなど正課授業や課外授業の大きな支障となっていたため、排水に重点を置いたグラウンド全面の整地作業と側溝整備工事を実施しました。

また、アリーナ1・2及びチャペル等の一部を除いた全照明をLEDへ更新を行いました。

ICT教育環境整備では、2018年度末に電子黒板機能を備えたプロジェクタを中学校の全教室へ設置する予定です。また、高等学校の全教室にもスクリーンを設置し、すべての教室でICTを活用した授業が可能となりました。

幼稚園・保育所機能の充実・強化

幼稚園では、子どもたちが自然の中で遊べて楽しめる、ツリーハウスの設置が実現しました。保育園では、今後園庭の整備を行ってまいります。

基本コンセプト3 時代を先取りする学術研究

キャンパスグランドデザインの推進

人・環境・地域の新たなあり方を世界に向けて発信する

『知のガーデンキャンパス～地域とつながる100年の庭づくり～』

学術研究に相応しく、在学生のみならず同窓生、地域にとって魅力あふれるキャンパスを整備いたします。

大学新図書館の建設

学院と地域を結びつける新たな「大学の顔」であり、知の拠点となる新図書館は、西新の新たなシンボルとなる建物です。新図書館は、地上7階建てで、学生たちの自発的な学修意欲を掻き立てる場となるアクティブゾーンと従来の静かな図書館機能を持ったサイレントゾーンを設けています。また、1階には、どなたでも利用できるライブラリーカフェがあります。



基本コンセプト4 守り伝える建学の精神

西南学院史資料センター開設

創立者C. K. ドージャー並びに学院関係者の事跡およびその歴史を明らかにし、建学の精神の涵養、歴史への理解とその継承を図ること、また学院、バプテスト教会および学院に連なる全ての関係者に係る資料の収集・保存および調査・研究を行い、それらを広く公開して交流の拠点となり、学院の教育並びに研究の充実と発展に資することを目的として西南学院百年館（松緑館）に西南学院史資料センターを設置しました。

寄付者銘板のご紹介

ご寄付をいただいた個人様、団体様、法人様のご芳名を刻銘した銘板を、2016（平成28）年10月にオープンした西南学院百年館（松緑館）の1階に設置しております。百年館（松緑館）にお越しの際に、ぜひご覧ください。

銘板掲載対象：個人5万円以上、団体10万円以上、法人50万円以上のご寄付をいただいた方



お問い合わせ先 西南学院 総合企画部 広報・校友課 TEL:092-823-3248 FAX:092-823-3249 E-mail:koyu@seinan-gu.ac.jp

1916（大正5）年に、宣教師C.K.ドージャーによって建てられた西南学院は、2016（平成28）年に創立100周年を迎えました。2013（平成25）年7月から2017（平成29）年3月まで実施しました創立100周年記念募金事業に対しましては、学生・生徒・児童・園児の保証人・保護者様ならびに同窓生の皆様から多大なるご寄付をいただきました。皆様からのご厚志に、心より感謝申し上げます。

募金目標額

募金名称：西南学院創立100周年記念募金

募金目的：西南学院創立100周年記念事業計画に要する資金調達のため

募金目標額：30億円〔事業費見込総額：172億円 自己資金総額：142億円〕

募金期間：2013年7月1日から2017年3月31日まで（3年9か月間）

募金実績額

募金総額 10億2,622万8,499円

募金実績額の内訳

種別	累計	備考
①理事・監事・評議員・現・旧教職員	125,516,414円	478名
②同窓生※	295,626,278円	7,135名
③在校生父母保証人※	74,874,467円	1,394名
④法人・団体	512,282,953円	593団体
⑤個人その他（同窓生の父母・配偶者・教職員の父母等）	17,928,387円	118名
合計	1,026,228,499円	9,718名

※②同窓生

種別	金額	人数
大学院	2,255,505円	75名
大学	176,081,973円	5,070名
高等学校	98,137,886円	1,545名
中学校	16,859,501円	335名
保育所	117,000円	10名
不明（未記入）	2,174,413円	100名
合計	295,626,278円	7,135名

※③在校生父母保証人

種別	金額	人数
大学	6,780,776円	647名
高等学校	12,206,111円	275名
中学校	17,255,581円	203名
小学校	37,553,888円	229名
不明（未記入）・その他	1,078,111円	40名
合計	74,874,467円	1,394名

募金使用内訳

守り伝える建学の精神（1.7%）
約1,740万円

時代を先取りする学術研究（63.3%）
約6億5,000万円

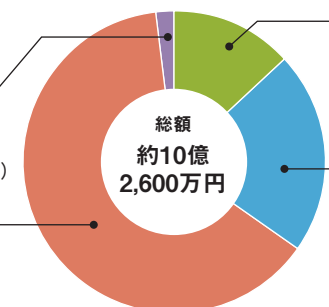
●キャンパスグランドデザインの推進
●大学新図書館の建設 等

人や地域との絆、感謝・貢献（13.3%）
約1億3,600万円

●西南学院百年館（松緑館）建設 等

世界に貢献できる人間教育（21.7%）
約2億2,260万円

●グローバル人材育成
●奨学金基金の創設（1億円）
●小学校、中学校、高等学校の
施設設備・教育環境の充実
●幼稚園、保育所機能の充実・強化 等



西南学院からのお知らせ

西南学院に関するさまざまな情報をお届けします。

西南学院史資料センター企画展 「戦時下の西南学院と平和宣言」開催のご案内

西南学院は、2016年4月、学院創立百周年に、「西南学院創立百周年に当たっての平和宣言」を発表し、学院の戦争責任・戦後責任の告白と平和宣言を行いました。その意義は、東アジアにおける戦争の恐怖が現実的なものとして報じられる昨今において、ますます重いものとなっています。西南学院史資料センターには、戦時中のさまざまな歴史資料を所蔵しており、それらの歴史資料を中心に展示し、学院がどのような状況であったかを明らかにいたします。

テーマ：「戦時下の西南学院と平和宣言」
会期：2018年3月1日(木)～5月19日(土)
時間：9時00分～17時00分
(最終入室は16時30分)
休館日：日曜日
会場：西南学院百年館(松緑館)1階企画展示室
主催：西南学院史資料センター



西南学院コンサート 「オルガンコンサート2018 バッハへの道」のご案内

西南学院コンサート「オルガンコンサート2018 バッハへの道」を次の通り開催いたします。

本公演では、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館専属オルガニストである山本真希氏がパイプオルガンを演奏いたします。

ぜひ、お誘いあわせの上、コンサートをお楽しみください。

日時：2018年6月23日(土)
開園：14時00分(開場13時30分)
会場：西南学院大学チャペル
チケット：一般前売り1,000円
当日1,500円
学生 500円
※未就学児の入場はご遠慮ください
出演者：山本 真希
(りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館専属オルガニスト)
お問い合わせ：(株)キャンパスサポート西南
TEL.092-823-3274



(広報・校友課 S・A)
自らの行動で彼らを、私は誇りに思う。
人に対して、自然と、無理なく心を寄せられる。これは、一朝一夕にできることでなく、人の痛みを分かち合うことができればならない。それは、いかに人の痛みを想像できるかに尽きる。
今回の特集に登場した児童、生徒、学生たちは、いずれも聖書にある「善いサマリヤ人」のように、困っている人たちの隣人になることができたのではない。
自らの行動で彼らを、私は誇りに思う。

聖書に、「善いサマリヤ人のたとえ(ルカによる福音書 10章25〜37節)」という話がある。私が初めて知ったのは、25年ほど前、西南学院高等学校時代に遡る。真鍋教頭(当時)が、あの独特な低い声で聖書の箇所を読み上げていた「行って、あなたも同じようにしなさい」という言葉が印象に残っている。
今号の特集は、「西南学院とボランティア」である。本学には、県や市からのボランティア支援要請に自ら手をあげる学生が多いと聞いた。これは、聖書やチャペルの時間に寄るところが大いではないか。
西南学院は、キリスト教主義に基づく教育を実践している。園児たちはお友達が風邪で休んだらお祈りし、児童・生徒たちは毎日の礼拝を欠かさず、世界各地で発生している辛い出来事に目を向け、心を共にしている。また、大学のチャペルでは、キリスト教に促われず各分野で活躍する方々を招いており、学生たちが講話に耳を傾けている。
人に対して、自然と、無理なく心を寄せられる。これは、一朝一夕にできることでなく、人の痛みを分かち合うことができればならない。それは、いかに人の痛みを想像できるかに尽きる。

聖書に、「善いサマリヤ人のたとえ(ルカによる福音書 10章25〜37節)」という話がある。私が初めて知ったのは、25年ほど前、西南学院高等学校時代に遡る。真鍋教頭(当時)が、あの独特な低い声で聖書の箇所を読み上げていた「行って、あなたも同じようにしなさい」という言葉が印象に残っている。
今号の特集は、「西南学院とボランティア」である。本学には、県や市からのボランティア支援要請に自ら手をあげる学生が多いと聞いた。これは、聖書やチャペルの時間に寄るところが大いではないか。
西南学院は、キリスト教主義に基づく教育を実践している。園児たちはお友達が風邪で休んだらお祈りし、児童・生徒たちは毎日の礼拝を欠かさず、世界各地で発生している辛い出来事に目を向け、心を共にしている。また、大学のチャペルでは、キリスト教に促われず各分野で活躍する方々を招いており、学生たちが講話に耳を傾けている。
人に対して、自然と、無理なく心を寄せられる。これは、一朝一夕にできることでなく、人の痛みを分かち合うことができればならない。それは、いかに人の痛みを想像できるかに尽きる。

編集後記

学院のフィールド
FIELD OF SEINAN GAKUIN

西南学院大学 図書館



photo:harigane yousuke

「知のシンボル」として

2017年4月にオープンした西南学院大学の新図書館。福岡の文教拠点である西新地区とキャンパスとの結節点に位置し、本学の新しい「知のシンボル」となり学術・文化拠点となることを意図して建築された図書館です。
2015年5月に着工、2016年9月に竣工。そして昨年開館した西南学院大学の新図書館は、建学の精神である「西南よ、キリストに忠実なれ」の理念に基づき、地域・キャンパスと建築が融合し、学生たちがこれまでになく知的創造活動を発信する場となるよう設計された地上7階建ての建物です。
1階から3階は学内のアクティブラーニングの環境を集約して、ディスカッションエリア、プレゼンテーションエリア、グループ学習室など声を出して学修してもよい環境が整ったアクティブゾーンとなっており、4階から7階は従来の「読む・調べる・考える・書く」といった図書館本来の機能を充実させたサイレントゾーンとなっています。旧図書館では約800席だった閲覧席を1,179席に増やし、収蔵能力は約180万冊を誇ります。
外観はレンガ・トレサリーと呼ばれる赤レンガの透かし積みと全面ガラスとを組み合わせで作られており、周囲の建物と調和し、重厚でありながら洗練された雰囲気を感じ出しています。また、サザエさん通りに面していることで、図書館前広場に

西南学院大学図書館 施設紹介



プレゼンテーションエリア
ゼミやサークルでの発表、プレゼンテーションなどさまざまな用途でご利用いただけます。



多目的ホール
大人数での会議などにご利用いただけるホールです。部屋を2分割して使用することも可能です。



ラーニングサポートエリア
大学院生・学部3年生以上のサポートスタッフが常駐し、学習のサポートを行います。



グループ学習室
グループ用の学習室で、クラス・ゼミなどでご利用いただけます。



視聴ブース
CDやDVD、Blu-rayなどの視聴覚資料は3階の視聴ブースで視聴できます。

西南学院大学図書館は、学生、教職員だけでなく、西南学院大学の卒業生も利用できます。ただし、ご利用手続きが必要です。詳しくは右記までお問い合わせください。

西南学院大学図書館

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号
TEL:092-823-3426

西南学院大学図書館

検索